

「まちづくりからみた文化ボランティア活動」

(株) まちづくり計画研修所

代表取締役 今泉 重敏

私はまちづくりの側から文化ボランティアを見ていこうと思います。大きくコミュニティを捉えると、テーマ・コミュニティとエリア・コミュニティの二つがあると思います。皆様の中には文化あるいは教育・環境分野で活動する人と福祉の分野で活動する人がいらっしゃいます。それぞれ自分の好きなテーマに基づいて、住んでいる所も隣町など境を越えて一緒にしようというのを私はテーマ・コミュニティと言っています。その一方で町内会長や自治会長がいるところはエリアが決まっています、そこで総合的にする、これをエリア・コミュニティと言っています。二つが融合して手を結ばないといけない時代に来ていると思います。

地域を取り巻く世の中の動きとして市町村合併ですね、多くが合併するとどうしても中心部の方に目が向いてしまい、遠くの方は見向きもされない傾向にあります。特に周りの方ではどうしたらいいのかという問題が起きています。行政の危機感！今、イタリアやギリシャもそうですが国が破綻し、行政も大変な時代に来ています。人口も減ってきています。それと例の東日本大震災の関係で安心安全に対する市民の動きが高まっています。

それから地域が抱える課題として少子高齢化により活力が低下しています。先日ある島に行きましたら65歳以上が70%でした。別の島に行くと90%ですよ、若者は？と聞きますとここにいますと50台のひとでした。人口が少ないから、まちづくりや島興しが難しいわけではなく、少なれば少ないなりに皆が何かを担わないとダメです。だから中途半端に少ないよりは、少ないほうが皆で役割を持って動けますとはっきり言われました。どんどん人口が減り始めているが活動する人は同じメンバーになっています。

もう一つは地域コミュニティの企画化です。自治会に入らない、入らなくても生きていけると言う人がでてきています。その人は地域にお世話になっていないと言う。ではお宅の子どもはどのようなコースで学校に行っていますか、また交差点で見守っているのは誰かと聞くと、ここでは婆さん、ここでは爺さんが見守っていると言う。こういう人達が見守っているからお宅の子どもは学校に無事に行けるでしょうと言います。それから一人暮らしの人はどうか、私は一人だから地域とは関係ない、社会にはお世話になっていないと言う。ではあなたが出したゴミは誰が分別していますか、地域の人がちゃんとしているんですよ、これをやらなくなったらどうなるか、行政にやってもらおうとすると税金がかかる。皆がお金を出さないといけない。やっぱり何らかの形で関わっている、それを忘れかけた人がたくさんいらっしゃいます。

そういう動きに向けて、福岡県でもそうですが、今、全国的に小学校単位のまちづくり・中学校単位のまちづくりをしようという動きがあります。これは阪神大震災からで、遠くの親戚より近くの他人と、隣同士が何らかの形で仲良くなっていないと何かの時に手助けが出来ません。そこで校区単位でまちづくりをやっていきましょうという動きです。行政が何でもやる時代は終わり、役割分担ですね、行政と市民がお互いに得意なところを出し合っていきましょうという動きが活発になっています。ただし形だけ校区をつくり中身がないところもあります。行政は都合がよくても市民の方の動きがまだですね。補助金の都合上組織を作ってもらったところもあります。それではダメですね。やはり自主的にやっついていかないと。地区単位のまちづくりのポイントがあります。2・6・2の法則です。何かやろうと思うと2割は前向き、同じ2割は必ず文句を言う、

間の6割はその様子をじいーと見ている、そして元気付いた頃に6割はさっと移動して言います、「私も最初からそう思っていました」と。この2割のどちらが元気付くか、もちろん、僕は前向きの2割を引っ張っていきます。そういう中で何故まちづくりをしなければならないのか、そういうところを分からずに進んでいると結果的に何も出来ない。一方でどういう方向にむかってやるのだというビジョンが無いと会長が代わるたびにやり方が変わっていきます。行政から補助金があるからこれをしませんか？と言ってくるとぱっと飛びつく。また来年も、また次の年も・・・と、10年後はどんな街をつくるんだ、何をやってきたのだということになってしまいます。ですから私は小学校単位ぐらいで地域を見て回り、まちづくり協議会できちんとビジョンを作っています。校区の憲法ができます、その憲法どおりに10年間動いていくことになります。そのような時に必要なのが先ほど古賀さんもおっしゃったつなぎ役です。このつなぎ役は地域の人もありますが、最初の仕掛け人として外部・よそ者が言ってあげないと動かない、地域で何か言うと、またあの人が何か言っているとなりますが、同じ内容を他所の人が言うと、やっぱりそうなんだと理解されます。不思議ですね。私も地元で何か言うと消防団の先輩がすぐに口を出してきます。消防団では一つ歳が違えば天と地です。他所で講演すると福岡県地域づくりコーディネーターの今泉さんがやっぱりあんなことをいいよと分ってくれます。

それと行政マンも6時以降は一市民として、つなぎ役として地域で貢献する、それが本物の行政マンだと思っています。そういう人達が足を引っ張られないように応援をしています。つなぎ役の視点でいきますと、まちづくりには文化ボランティアが求められています。言われたからやるのではなく、何か見方を変えることであっ！これは楽しいと、そうした経験を多くの人にお伝えすることが文化ボランティアに大切なことです。（P・P映像はいる）

それをこれからお見せしたいと思います。例えて言えば地域で小学校単位のまちづくりのオーケストラかなという感じがします。そこに地域の会長がいて楽譜（総合計画・ビジョン）を見、呼応しながら皆が音を揃えていく、文化ボランティアもそれに答えて音を出していく。ところが自分勝手に音を出すと音楽になりません、皆で合せていくことが必要になってくる。それをやるための活動資金が足りない、高齢化でいつも同じメンバー、このままだとうちの団体はどうなるのか不安を持っている方がたくさんいます。こんなに私達は活動しているけど行政からは何も評価されない、地域の人からもあの人達は「すきやけんやってる」と、言われる。いろんな課題を抱えています。

まちづくり、これは夫々自由に定義されて結構だと思っています。実際にやる団体・やる地域によって定義は違ってきています。古賀さんのこの定義も非常に分かりやすい、私も参考にしたいと思いましたが、私がやっているのは地域、皆が住んでいる所がこのようになればいいなと、ようするに10年後・20年後にこんなふうになったらいいなとイメージして、それを実現するために皆で地域情報を共有する。知らなかった、この分野のものしか出来ない。地域で情報を共有して一人一人が汗を流して地域課題を解決しながら行動すること。私は勉強するのはまちづくりと呼んでいません。やはり行動することが必要です。

いろんな市民の方がいてその中に文化ボランティアも入っていると思います。それを楽器に例えると打楽器です。打たれ強いからです。行政は連携しないといけないので管楽器です。役所ですから官ですね。それに我々専門家が入って外から応援する、これは弓偏に玄（くろうと）と書いて弦楽器と呼んでいます。これが協力して一般市民も市長も入れて、また小学校単位であれば

代表者の方がこの楽譜を見ながらやりましょうと。この楽譜が10年後のビジョンなんですね。文化ボランティア・文化団体の方もこういうビジョンがきちんとないと自分達は何のためにしているのか、行政から言われてしているのでは寂しいですね。私達はこれをやるためにこんな活動をするということをきちんと持ってからやりましょう。呼ばれるたびにこういう演奏をしますという雰囲気のもとでやっていく。まさにまちづくりオーケストラですね。

地域にはいろんな課題があると町内会長が悩んでおられます。自治会に入らない人が増えている・見守りをやらなければ等です。その一方で個人情報に貰えない・役所に行っても教えられない。まちづくりをやれと言いながら、何処に独居高齢者が居るかとか聞いても教えられません。やらなければいけないのに情報は教えてもらえないというジレンマに陥っている区長が多くおられます。皆忙しい、無関心で役員のなり手がいない。ボランティアのところでもそんなところが増えているようです。地域によっては人口が増え、新旧住民の間に摩擦が起きたり、耕作放棄地がめだったり、いろんなことが出てきています。区長や町内会長は道路計画でも中心で動かないといけない、将来は区長のなり手はないだろう、今のうちに何とかしようと思う区長がいる一方で一年間我慢し、難しいことは次の人に任せよう。いらんことすると仕事が増える、去年言われた事を今年も実行する。でもそのツケは次世代の子ども達にくるのです。誰かがやらないといけない。そういう地域でまちづくりにむけての課題がでてきています。それでいろんな団体の一つにして小学校単位でまちづくりの協議会を作り、地域のことは地域で解決しようという動きが活発化しています。

これからのまちづくりは事件が起きてからや、病気になってから行動するのではなく、事件が起きないように皆で知恵を出し、汗を流していくまちづくりは、まさに予防や健康の視点に立った市民行動だと思っています。ところが方向が見えないと皆勝手にやります。その方向を先程言った将来ビジョンをきちんとたててやるということです。観光案内でもただ案内するだけでなく、この絵は将来薄くなってしまうかもしれないと写真に記録しておけば将来復元できます。良いところ悪いところを地域で分別して良いところは生かしてゆく、悪いところはこうしようというようなワークショップを重ねていきます。これをまちづくり協議会ではいろんな所で展開しています。皆が地域の情報を共有できるようにやっています

朝倉市杷木町の筑後川の横に大木がありますが、来た人は大木だとしか見ません。ところが近くの駅でお尋ねすると、川の氾濫があった時にこの大木に登っていた人は、皆助かったと教えていただきました。俳句も施設の中に飾るのもいいですが、私なら地域に飾ります。地域で飾れる所を登録してもらい、俳句のメンバーが置いて行く。これを見て歩くのを「俳キング」と言います。各自が出来ることをみんな一つずつやって、それを皆さんが繋いでくれるといいですね。一つの小さな建物だけではなく町全体に広がって、町全体が美術館のようになる。そこに来た人が住んでみようという感覚になってきます。施設ばかりを見るのではなくちょっと視点を変えると町にあるものが立派なアートになったりします。棚田もちょっと視点を変えると、この一枚の棚田であなたが一年間に食べるお米が出来ます、と表示するだけで自分の生活と密着していく。

「一戸一美運動」一つの家で一つの美しいものをやって行こうということです。ハーモニカが好きな人がいれば吹いてもらってから会議を始める。福井県で見つけた緑のスコープ一掻き運動は信号待ちの時間に一掻きやるんですね。書が好きな方・竹細工が好きな方・俳句が好きな方がいる、夫々作品を作って展示します。ああ良かった、良かったで、終わりではもったいないです。

これをまちづくりに応用しようと、この三人に協力していただくと竹細工に書好きな方が俳句を書いて、これがブロック塀に並ぶと素晴らしい光景になります。回りに呼びかけてちょっとしたことをやってもらうだけで美しくなります。会議でも一輪の花があれば、発表する人にとっては緊張がほぐれます。その辺の草花を持って来てポツと飾る。ようするに自分だけの事を考えずに相手のこと・地域の事を考えて、訪れる人の立場になって考えるとどうすれば良いかが見えてきます。普通、家の中に飾る物を外に飾っていたらいいですよね。「ようこそわが町へ」と町全体が美術館のようになります。広場にモニュメントがあります。これだけあってもダメなんです。「あーあるな」としか見ません。この活用方法を是非、皆に提案してほしいものです。私もある工夫をしましたが、これだけで友達同士・恋人同士が写真を撮っていくんですね。そこでこのモニュメントが生きるんです。こういうのをアートウォーク・美を見て歩くと言います。是非文化ボランティアの方もこのようなことで地域を良くしてもらえればと思います。

他には塀を作る時に孫の手形と足型をつけます。いろんなことを知っているいろんな提案をするのも皆さんボランティアの役目です。そうすると町が良くなり住みやすくなり人が来る、そしてここに住んでみたくなります。先ほど古賀さんがおっしゃった地域の活性化にもなると思います。こういう活動をするには笑顔が欠かせません。ブスツとした顔で案内をすれば二度と来るか、となります。私は漫画家に頼んで似顔絵を描いてもらいました。あまりにもそっくりだったので後と横顔も描いてもらいました。立花町の松尾百笑村では田んぼに諺を書いた立て札が20も並び子どもが歩きながら覚えていくんですね。学校に一番近い場所の諺が「一寸先は闇」、「これはダメですね」と笑顔、これが文化ボランティアに欠かせないキーワードです。

最初にニコツとすることで、この人の話を聞きたいとなるので笑顔は重要です。皆さんは笑いを売る人、笑売人です。少し見方を変えるとただの木や森がプードルやムーミンに見えたりします。犬の糞は人が見ていないと拾わない人がいますが、減らす方法があります。犬が糞をする所を調べ糞が親指より大きいと地図に赤いシールを貼ります、親指より小さいと黄色のシールを貼ります。これを町内ごとに犬の糞地図と言って貼っていきます。ほとんどの人がそれを見て捨てなくなります。採った糞はビニール袋に入れて重さを量り公民館に展示します。そうすると町内会ごとにここが一番悪いというのが分かるので、三ヶ月後はなくなります。量ったら11.5キロあったこともあります。

ある所の案山子（耕運機に寄りかかった）には何かが書いてあります。何が書いてあるかという「もう、一週間いじくっちゃるばってんエンジンがかからんと」と書いてあります。他にもいろいろな工夫をした案山子があり、田んぼから外に出た案山子が普段は人の来ないところに人を呼びます。

最後に、こういうことをやろうとすると、2割6割2割（2・6・2の法則）が必ずあります。前向きな2割でやりましょう。必ず皆さんの地域にも足を引っ張る2割はいると思いますが、気にせずに前向きな2割で物事を動かし6割を引っ張って行きましょう。

※ 多彩な映像を駆使しての講演でしたが、本文には映像がないため一部割愛した部分があります。

また文章のみで分かりにくいところもあるかと思いますが、ご容赦の程お願いします。

(NPO 法人 文化ボランティアとびうめの会)